

2026年6月24日

'26-G2号

2026年度 生命保険に関する研究助成制度助成者の決定

公益財団法人生命保険文化センター（代表理事・小原広之）では、学術振興事業の一環といたしまして、主として若手研究者の生命保険およびこれに関連する研究を支援することを目的として、2001年度から助成金による学術助成事業を行っております。また、2021年度より若手研究者に加え、若干名の一般研究者（教授職）にも助成を行うこととしております。

当センター内に設置しております学識者を委員とする「学術振興委員会」における審議を経て、今年度は下記の15件（若手研究者10件、一般研究者5件）に助成を行うことを決定いたしました。

注）研究助成制度につきましては、当センターホームページに掲載しております。

<https://www.jili.or.jp/workshop/josei/index.html>



記

2026年度 助成者・研究テーマ

（氏名五十音順にて掲載）

【若手研究者】

No.	氏名	大学・学部	役職	研究テーマ
1	岩淵 重広	立命館大学 法学部	准教授	保険契約の重複加入によって生じるモラルリスクの増加への対処法についての考察
2	江淵 剛	公立諏訪東京理科大学 共通・マネジメント教育センター	専任講師	金融経済教育が届いていない層についての実証分析 — 社会人への金融経済教育の普及のためには —
3	可知 徳高	北九州市立大学 文学部	講師	進路多様校の高校生を対象とした「余暇」を起点に「人生上のリスクと保険」を考えるキャリア教育学習プログラムの開発と評価
4	川本 晃史	順天堂大学 医学部 放射線治療学講座	准教授	診療報酬改定に伴う地方医療圏における高精度放射線治療の普及と民間保険給付規定が患者の意思決定に及ぼす影響の実態解明
5	佐伯 勇介	小樽商科大学 大学院商学研究科 現代商学専攻	博士後期課程	加入後の顧客対応における生命保険会社と生命保険代理店の組織ルーチンを通じた協働 — 継続的に顧客の獲得価値を提供するメカニズムの解明 —
6	佐川 魅恵	東京大学 大学院総合文化研究科 国際社会科学専攻 関連社会科学分野	博士課程	近代日本における性科学と生命保険リスク概念の形成に関する歴史社会学的研究
7	関根 憲暁	成城大学 大学院社会イノベーション研究科	博士課程後期1年	少額短期保険の存在は既存保険の加入にいかなる影響を与えるか — 代替・補充関係と利用者行動の実証分析 —
8	橋立 洋祐	上智大学 経済学部	助教	終身年金市場における需要の過小と社会厚生: model misspecificationによるアプローチ
9	BI HANXUAN	神戸大学 大学院経営学研究科	博士課程後期課程1年	医療保険における必要予想額の形成および実購入額の規定要因としての金融・保険リテラシー
10	八重島 崇宏	福岡大学 商学部	非常勤講師	市町村別介護供給構造の差異と給付水準 — 法人内サービス統合に着目して —

<次ページへ続く>

【一般研究者】

No.	氏名	大学・学部	役職	研究テーマ
1	飯田 秀総	東京大学 大学院法学政治学研究科	教授	金融事業者と暴力団排除条項
2	上杉 めぐみ	東京経済大学 現代法学部	教授	生命保険分野における「日本の顧客本位の業務運営の原則」とイギリスで導入された「Consumer Duty」との比較
3	壁谷 順之	富山県立大学 工学部 教養教育センター	准教授	保険教育や会計教育が大学生の投資行動に与える影響分析 —学年別、地域別のアンケート調査を中心に—
	上山 仁恵	名古屋学院大学 経済学部	教授	
	北野 友士	大阪公立大学 大学院経営学研究科 ／商学部	教授	
4	中村 信男	早稲田大学 商学学術院	教授	保険契約者・保険金受取人でない自然人による被保険者自殺への保険者免責規定の拡張を図る法的アプローチとその射程
5	広瀬 純夫	信州大学 経法学部 応用経済学科	教授	人口流出地域における高齢世帯の生活保障と生命保険の役割に関する実証研究 —家族による互助から保険による自助への構造転換と地域格差の解明—

<本件に関するお問い合わせ先>

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目4番1号 新国際ビル3F
公益財団法人 生命保険文化センター
保険研究室 研究助成係 (TEL: 03-5220-8512)



以上